自治体と連携して、各種のリスクコミュニケーションを開催しています。

■全国各地で開催

食品安全委員会では、全国の皆様と「食の安全」について共に考え,学ぶ場として、「ワークショップ」や「アフタヌーンカフェ」などの各種リスクコミュニケーション活動を各地の自治体と連携して行っています。これらは参加者を比較的少人数にすることで、皆さんにより気軽で自由な雰囲気で意見交換や質問、話し合いをしていただけるリスクコミュニケーションとして、近年力を入れている試みです。参加者の満足度等も高く、他の活動とともに一層効果的な推進に努めてまいります。

■グループワークで話し合いを

平成21年12月1日（火）、厚生労働省、大分県との共催のもと開催したのが「食品のリスクを考えるワークショップ（大分）～どう思う?食品添加物～」です。消費者、行政担当者など45名が参加しました。当日はまず、食品添加物とリスク評価についての基礎的な講義の後、参加者自身によるグループワークを行いました。グループワークでは、講義を聴いて気になったこと、感じたことなどを整理。これをもとにグループ発表を行い、この内容をもとに、食品添加物の安全性や、大分県での取組状況などを中心に厚生労働省、食品安全委員会、大分県の各コメンテーターとの質疑応答を行いました。その後は2回目のグループワークとして、今日の内容をふりかえり、食品添加物について、一番印象に残ったことなどを話し合いました。グループワークの際には、大分県の食品安全行政担当者が各グループ進行役として参加しました。

■積極的にご参加ください

こうした自治体と連携したリスクコミュニケーション活動は、全国各地で開催しており、来年度もさまざまな形で実施する予定です。開催の予定は食品安全委員会のホームページやメールマガジン（e-マガジン）で、開催約1ヶ月前にお知らせしています。お近くで開催される際は、ぜひご参加ください。一人でも多くの方が、「食の安全」に関する科学的な情報を身につけていただき、地域での発信者となっていただけることを、食品安全委員会は期待しています。

食品分野におけるナノテクノロジーの今 –世界の動きを中心に–

詳細は http://www.fsc.go.jp/koukan/risk-tokyo_nanotec_211211/risk-tokyo_nanotec_211211.html

平成21年12月11日（金）、食品安全委員会は東京において 、食品分野におけるナノテクノロジーの利用状況や最新の国際的な検討状況に関する情報提供を主体としたセミナーを開催しました。

ナノテクノロジーとは物質の原子や分子の配列を10のマイナス9乗メートル（=10億分の1m）程度のスケールで制御することによって、さまざまな材料がこれまでにない新しい性質や機能を持つようにする技術のことです。セミナーは、まず茨城大学農学部の立川雅司准教授から「食品分野におけるナノテクノロジーについて」と題した講演が行われました。ここではナノテクノロジーの概要紹介と、この技術が食品に利用できる可能性、そしてその場合のリスクの考え方などが紹介されました。

次に、オーストラリア・ニュージーランド食品安全基準庁（FSANZ）リスク評価部門ジェネラルマネージャーであるアンドリュー・バートーロマス博士から「世界における食品分野のナノテクノロジー～オーストラリアの展望と世界的展望～」と題した講演が行われました。講演では、ナノテクノロジーは人類が古くから活用してきた技術であるとして、そのリスクおよびリスク評価の考え方、オーストラリアでのリスク管理とリスクコミュニケーションのあり方などが発表されました。

その後は会場との意見交換が行われましたが、ここではナノテクノロジー食品に関して、消費者の理解を得るにはどうしたらいいのか、特許が絡んだ企業情報はどこまで提供されるのかなどについて、遺伝子組換え食品の場合などを例にしながら、興味深い意見が交わされました。ナノテクノロジーは界面活性剤による乳化技術などとして利用されているように、最新の技術というわけではなく、また、食品や農業分野では現在までまったくの新規な物質を作り出しているというわけでもありません。ただし、研究開発が進み、技術が高度化していく中で出てくる新しい可能性について、今のうちから議論を重ね、考え方や基準を整理しておくことが重要です。そうした、科学のもたらす利便性とそのリスクのバランスをコントロールしていくシステムの重要性を考えるうえで、非常に有意義なセミナーとなりました。

講演者プロフィール

立川雅司
（たちかわ・まさし）
茨城大学農学部地域環境科学科准教授、農学博士。1984年に東京大学文学部卒業後、1993年ミシガン州立大学Department of Sociology修士課程修了、2002年東京大学にて農学博士号取得。農林水産政策研究所勤務の後、2007年より現職。 主な研究分野は、農業・食品の社会学、食品政策。

アンドリュー・バートーロマス
（Dr. Andrew Bartholomaeus）
オーストラリア・ニュージーランド食品安全基準庁（FSANZ）リスク評価部門ジェネラルマネージャー／オーストラリア保健省 薬品・医薬品行政局 薬品安全評価部門主席毒性学者。シドニー大学にて薬学学士号取得の後、ロイヤル・メルボルン工科大学にて毒性学博士号取得。オーストラリア政府機関において農業、獣医学、工業、化粧品、薬草、医薬品に関するさまざまな職務を歴任。